

## 第2章 現地調査

### 2.1 調査地域の選定

まず，サンプルとしてふさわしい状況の調査地域の選定した．

- 調査時間帯に交通量の変化が見られる
- ドライバーに経路選択の余地があること

の2点を条件に図2-1の三鷹市・武蔵野市の東西約4km 南北約2kmのエリアを選択し2回の予備調査を行った．1回目の予備調査では，エリアの外-外のODを測定しドライバーの経路選択の有無を見た．2回目の予備調査では，細街路への迂回，しみこみ，わきだしの多い地点を特定した．予備調査の結果，本調査では図2-1の点線で示したエリアで行うこととなった．

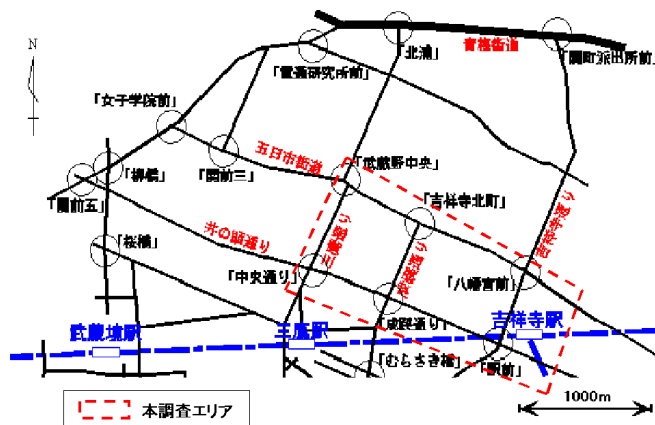


図2-1 予備調査エリア

図2-2は本調査エリアと観測断面を示す．本調査エリアは東西約2km 南北約1kmのエリアで観測地点を70地点設置した．



図2-2 本調査エリア

## 2.2 調査方法・特長

本調査は以下に行った。

項目	内容
調査日	平成8年10月30日(水)
調査時間	午前7時～午前10時
調査区域	東京都武蔵野市・三鷹市
調査地点	70ヶ所 79車線
対象車両	4輪車以上
調査項目	通過時刻(1分単位) プレートナンバー(大きい数字4桁) 車種(バス、タクシー、その他)

調査は、図 2-2 の各観測断面を通過した車両(二輪車を除く)のナンバープレート、車種、通過時刻を得ることを目的とする。

今回、行った調査では調査員の記録誤りを考慮し、カセットテープ録音と野帳記入の2系統で記録することでお互いを補完し、観測精度の向上を計った。

具体的には、一つの観測地点にテープ録音者と野帳記入者の二人一組を配置し、テープ録音者は図 2-3 のようにある一定の断面を車両が通過したときに「はい!」と言い、その後プレートナンバー・車種を続けて読みあげその声をカセットレコーダーに録音した。野帳記入者はテープ録音者の声を聞いて用意された野帳にプレートナンバー・車種を記入した。録音者は車群の合間に、野帳記入者は時計を見ながら正分(0秒の時)に通過時刻を記録した。

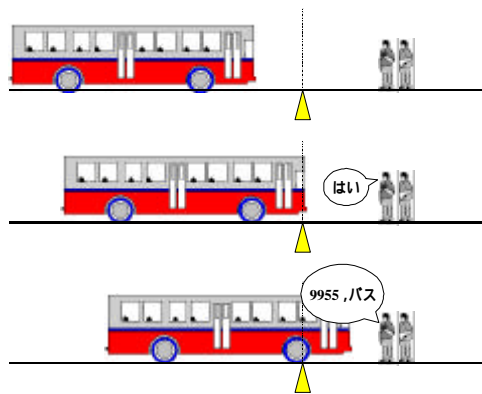


図 2-3 調査方法

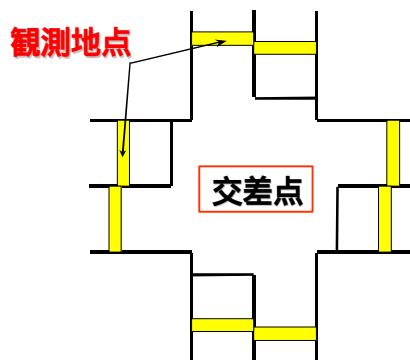


図 2-4 交差点と調査地点

また、このような記録を図 2-4 のように交差点の流入・流出部で行っているため、ある交差点を通過した車両は必ず2つの調査地点を通過することになるので交差点内での挙動が容易に把握できるほか、ある1地点で記録誤りがあった場合にも他の地点の記録から車両軌跡を推定できる利点がある。

### 2.3 調査地点と交差点の対応について

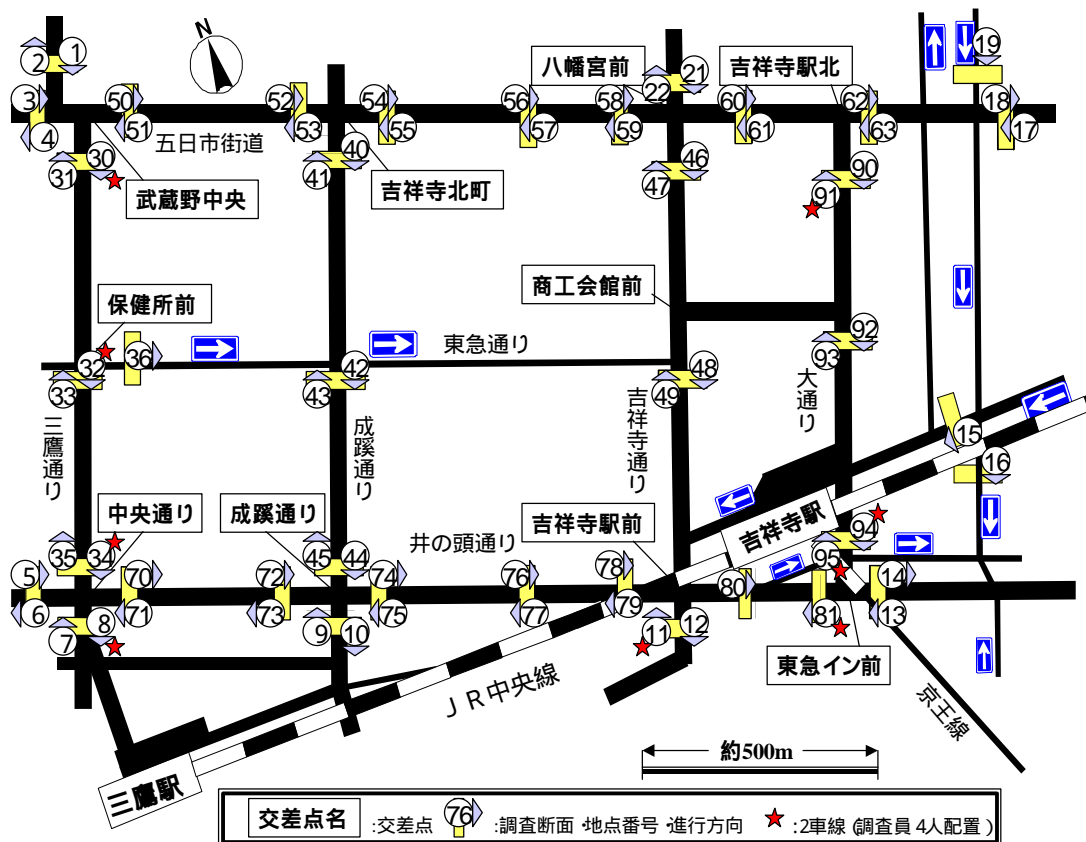


図 2-5 調査地点と交差点の関係

マッチング処理の利便性を考慮し，図 2-5（詳細は付録図参照）のように調査地点番号をつけた．図 2-5 中，丸数字で示されたものが調査地点番号で矢印の方向に進行する車両を記録した．調査地点は，地点 1 ～ 95 の合計 70 地点で調査を行った．

またこのほか 2 地点でビデオ撮影をし，マッチング処理後の断面交通量のチェックなどに使用した．

多車線の地点では車線数 × 2 名（カセット録音・野帳記入）の調査員を配置した．